

生きもの

DE

すわ

2022年3月9日発行
文・写真・絵 生きもの集め隊 隊長 平野 邦好

春のかわり

日に日に暖かくなり、春の便りが聞こえてくるようになりました。
今回は校舎前の花壇に植えられている花々について紹介します。



①



②



③

① 3月6日、暖かい春の日差しの中で、紫や黄色や白のパンジーが満開です。
② これらのパンジーの苗は、昨年11月29日に2年生が植えたものです。
③ 植えたときは、株も小さく花もまばらでした。

2年生の皆さんが協力して水やりや世話をし続けているおかげで、こんなに立派に育ちました。卒業式や入学式まで咲き続けるといいですね。

④ オステオスペルマム
南アフリカ原産の宿根草です。日光が大好きで寒さにはやや弱いですが、暑さや乾燥には強いので、諏訪小学校の校舎前の花壇にはぴったりです。
明るい色の花がたくさん咲き、開花期も長いので、肥料が切れると咲かなくなるので、時々、液体肥料をやっています。



④

オステオスペルマムの隣に植えてある植物は、まだ咲いていませんが咲き出せば目を見張るようなあでやかさを演出してくれるはずで、とっても楽しみです。

⑤ゴデチア



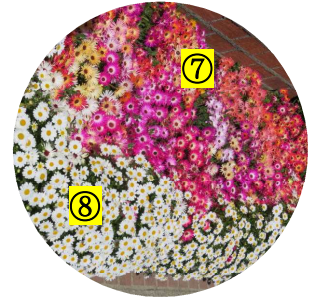
写真は単色ですが、混合色を植えました。

⑥ヤグルマギク



⑦リビングストーンデージー

⑧ノースポール



芸術作品

1月16日に保健室の前にある桑の木にメジロの巣を見つけました。冬になり桑の葉が全て落ちたので気がつきました。

葉が茂っている間は、全く気がつきませんでした。メジロはスズメよりかなり小さく、体は草緑色で目の周りに白い輪があるので「メジロ」と名付けられました。メジロが諏訪小学校にも来ていることは気がついていましたが、2羽が一緒にいるところは見ることがなく、今回繁殖していることが分かって、とってもうれしいです。メジロの巣は、クモの糸、草、動物の毛、ビニールテープ等を使ってできていて、テニスボール位の大きさです。とっても丁寧に上手に作られています。樹上に木の枝などを折り重ねただけのカラスの巣と比べてみてください。その芸術性が分かります。どうして、教えてもらったわけでもないのに、どのメジロも芸術作品のような巣を作ることができるのでしょうか。とても不思議です。



メジロはとっても甘党です。椿や桜の花の蜜を吸います。そのために舌の先が筆状になっています。虫のいない冬に咲く椿は、メジロが蜜を吸うときに花粉を運んでくれるので、実を着けることができるのです。餌台に切ったミカンやリンゴを置いておくと食べたり、お皿に入ったジュースを飲んだりもします。いもむしなど虫もよく食べます。



⑨



⑩

⑨芸術的なメジロの巣

⑩木の枝を組み合わせたただけのカラスの巣